

社団法人私立大学情報教育協会
平成21年度 第5回社会福祉学教育FD/IT活用研究委員会

日時 : 平成21年11月9日(月) 12時30分~14時30分

場所 : 私立大学情報教育協会事務局会議室

出席者 : 天野アドバイザー、山路委員、渡辺委員、井上委員(スカイプによる音声参加)、
前田委員長

事務局 : 井端事務局長、森下職員、恩田職員

議事内容 :

1 委員会で配布された資料等の確認と概略説明(井端事務局長)

2 社会福祉学教育における学士力の詳細設計について(継続)

前回確定した案をインターネットにより配信した結果、さまざまな意見が寄せられた。そこで、インターネットの意見反映済みの学士力案の資料について、各意見の妥当性をひとつずつ検討した。

(1) 今回の学士力の(案)は、専門職業人養成の教育だけでなく、社会福祉学教育の視点から検討したことを明記し。(注)として、本学士力案は、既存の社会福祉士等養成施設のコアカリキュラムによるだけでなく、今後の社会福祉学教育発展の視点から作成したものであることを明記した。

(2) 以下の内容を意見を反映して改定した。

到達度の表現を「説明できる。」から「概説できる。」に統一した。

【到達目標】1. の社会福祉の「機能と役割」を「意義と機能」に改定した。

【到達目標】2. 【到達度】③を「エンパワメントの理念と権利擁護のしくみを概説できる。」に改定した。

【到達目標】3. 【到達度】②と④を改定した。

② 受容的、共感的態度をもって対人関係を形成することができ、他者と協働することができる。

④ 援助における自己覚知の必要性を理解し、深めようとする姿勢を持っている。

【到達目標】4. 【到達度】①を改定した。

① 社会福祉サービスの利用者を理解し、ニーズ分析した上で援助目標を設定できる。

【到達目標】5. 「企画する応用力」を「企画できる」に改定した。

【コアカリキュラムのイメージ】に「社会福祉調査」を追加した。

【到達度】③と④を改定した。

③ 社会福祉ニーズを把握するための基礎的な社会福祉調査の設計ができる。

④ 問題解決のために、行政・地域・市民への働きかけや新たな資源やサービスプログラムの企画案を作成できる。

以上の結果、最終案を委員会において決定した(別紙参照)。

3 今後のスケジュールについて

私情協によって、まもなく学系別の学士力案が文部科学省に提案される。その後は、情報教育の推進・改善に向けての提案を具体的に検討していく。次回の委員会には、各委員からの情報教育に関する学士レベルの到達目標、教育方法、測定手段等を設定し、今年度内に案を確定する予定である。

4 次回委員会について： メールにて後日調整のうえ、決定

5. 本日決定の社会福祉学 学士力(案)

インターネットの意見を委員会反映済み

社会福祉学 学士力(案)

平成 21 年 11 月 9 日現在
社会福祉学教育 FD/IT 活用研究委員会

ここでは、専門職業人養成の教育だけでなく、社会福祉学教育の視点から検討したものです。

【到達目標】

1. 人間と社会環境の視点から、現代社会の生活に関わる諸問題を把握し、社会福祉の意義と機能を理解できる。

【コアカリキュラムのイメージ】

現代社会と社会福祉など

【到達度】

- ① 人間という存在と家族、集団、地域、制度など社会環境について概説できる。
- ② 差別、貧困、家族関係、虐待・暴力、疾病、就労など現代社会における諸問題の発生要因・歴史的背景・実態について概説できる。
- ③ 現代社会における諸問題と関連づけて、社会福祉の目的・機能を具体的な事例に合わせて概説できる。
- ④ 社会福祉制度・政策および関連施策などについて概説できる。

【測定方法】

①～④は、社会福祉の意義と機能の観点から、講義、演習におけるレポートや筆記試験などにより確認する。

【到達目標】

2. 人権尊重および社会正義の理念を確認し、ソーシャルワークの目的・価値・倫理の概要を理解できる。

【コアカリキュラムのイメージ】

ソーシャルワーク論など

【到達度】

- ① 基本的人権について概説できる。
- ② 性別、国籍、人種、民族、障害、宗教、セクシャリティなど人間の多様性を通して、共生の価値観について概説できる。
- ③ 人権侵害の状況を理解した上で、エンパワメントの理念と権利擁護のしくみを概説できる。
- ④ ソーシャルワーカーの倫理綱領を概説できる。

【測定方法】

- ①～③は、ソーシャルワークの視点から、レポート、筆記試験などにより確認する。
- ④は、筆記試験、口頭試験などで確認する。

【到達目標】

3. ソーシャルワーカーとしての基本的態度を身につけている

【コアカリキュラムのイメージ】

ソーシャルワーク演習、ソーシャルワーク実習など

【到達度】

- ① 他者の話を傾聴することができる。
- ② 受容的、共感的態度をもって対人関係を形成することができ、他者と協働することができる。
- ③ 守秘義務について理解し、プライバシー保護に努めることができる。
- ④ 援助における自己覚知の必要性を理解し、深めようとする姿勢を持っている。

【測定方法】

- ①～④は、ソーシャルワーカーとしての基本的態度を身につけるために、演習、実習などにより確認する。

【到達目標】

4. ソーシャルワークの専門的な知識および技術を身につけている。

【コアカリキュラムのイメージ】

ソーシャルワーク論、ソーシャルワーク演習、ソーシャルワーク実習など

【到達度】

- ① 社会福祉サービスの利用者を理解し、ニーズ分析した上で援助目標を設定できる。
- ② 生活歴、家族関係、経済的背景、心理的・身体的背景など個別の状況を全体的に把握し、アセスメントについて理解し、説明できる。
- ③ ミクロ・メゾ・マクロのソーシャルワークについて概説できる。
- ④ ソーシャルワークのジェネラリスト・モデルについて概説できる。

【測定方法】

- ①は、社会福祉サービスの利用者ニーズを理解するために演習および実習などにより確認する。
- ②は、社会福祉サービスの利用者の個別の状況を理解するために演習および実習により確認する。
- ③と④は、ソーシャルワークの方法を理解するために講義、レポート、筆記試験などにより確認する。

【到達目標】

5. 社会福祉に関する制度・政策を客観的に分析し、新たな社会資源やサービスプログラムを企画できる。

【コアカリキュラムのイメージ】

地域福祉論、社会福祉調査、福祉行財政と福祉計画など

【到達度】

- ① 社会福祉制度・政策について理解している。
- ② 制度・政策の問題点と課題について説明できる。
- ③ 社会福祉ニーズを把握するための基礎的な社会福祉調査の設計ができる。
- ④ 問題解決のために、行政・地域・市民への働きかけや新たな資源やサービスプログラムの企画案を作成できる。

【測定方法】

①～④は、演習、事例検討、プレゼンテーション、卒業研究などにより確認する。

(注) なお、以上の学士力案は、既存の社会福祉士等養成施設のコアカリキュラムによるだけでなく、今後の社会福祉学教育発展の視点から作成したものである。

以上